

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金**企画研究プロジェクトⅠ（教員・学生参加型） 2024年度研究成果報告書**

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏 名
	コミュニティ政策学科・4年	宮川 千佳
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ政策学科 教授	藤井 敦史
研究課題	多角的に事業を展開する地域協同組合から 地域を豊かにするコミュニティ開発を研究する	
研究年度	2024年度	
プロジェクト 分担者	高木裕人・津江菜々美・西原なつみ・宮良あまね・熊谷奈々子・稲村日鞠・ 紺野陽奈・齋藤ののか	

プロジェクトの内容及び成果の概要

○プロジェクトのテーマ

本プロジェクトは、愛媛県の「地域組合法人 無茶々園」へのヒアリング、フィールドワークを通じて、多角的に事業を展開する地域協同組合から地域を豊かにするコミュニティ開発の研究を目指すものである。そのため、人口減少や少子高齢化、コミュニティの希薄化により、存続が困難になっている地域に対して、どのようにして地域を持続可能にし、豊かにさせることが可能なのかに注目した。そこで、愛媛県の「地域組合法人 無茶々園」を研究事例として、フィールドワークを行い、現場の実践家の方達の意見を伺った。

○プロジェクトの概要

「地域組合法人 無茶々園」（以後、無茶々園とする）は、元々無農薬・無化学肥料栽培から始まった農業組合法人であった。そこから活動が広がり、現在では地域組合法人として様々な機関・事業体と繋がりを作り、多角的に事業を展開している。農業に関わる有機農業ネットワークの形成や、若者の新規就農支援、環境保全活動に加えて、地域福祉事業などに関わる幅広い事業を地域一体となって実現している点が特徴だといえる。

私たちは、実際に無茶々園の事業が行われる現場へ伺い、地域コミュニティのあり方や、住民との関係性、様々な事業が成り立つ要因やこれからの展望等を調査した。現地へ伺ったのは3日間であったが、その中でも多様な現場を見学し、多くの方々にお話を伺うことができた。

○フィールドワークを通じて見えた、地域を豊かにするために重要な3点

本報告書では、無茶々園でのフィールドワークを通じて、地域を豊かにするために重要だと発見した点を大きく3点に分けて述べる。

① 地域の事業の持続可能な体制を作りあげること

無茶々園は様々な事業を行っているが、それらの事業は収益面などの現実的な側面からも持続可能な体制が作り上げられていることが分かった。地域に必要な事業であるだけでなく、地域全体の経済に良い影響を与える体制が作られていた。例えば、有機栽培のみかん栽培においては、地域にとって良い「有機栽培」を行うことのみに注力するのではなく、それらが市場の中で商品として成立し、地域の生産者の生活を支えられる体制が作られていた。具体的には、機械の活用で糖度が均一なみかんを販売したり、規格外のみかんを他の商品に加工し販売したりといった工夫がされていた。このように、地域に存在する事業をただ継続させるだけではなく、地域住民の生計が十分に成り立つようにすること

は、地域を豊かにする上で、根本的に必要な点であると実感することができた。

② 地域外とのネットワークを複数持ち、多様な人々を巻き込んでいること

無茶々園の事業は、地域内で完結するものよりも、地域の外と繋がりのあるものが多いことが分かった。地域外とのネットワークを作ることは、①で述べた事業の持続可能性にも寄与しているが、これに加えて、地域に様々な人々を巻き込むこともできるのだと気づいた。実際に、新規就農者支援の事業を通じては、農業に関心のある全国各地の若者と繋がり、地域おこし協力隊を通じては地域に関心のある若者と繋がりを持っていた。他にも、外国人労働者も受け入れており、多様な背景を持つ人々が地域に関わるきっかけを複数有していると分かった。そして、地域外とのネットワークを複数有していることは、新たに地域外の人々が地域に関わる際のハードルを下げることに繋がるのではないかと考えた。このようにして地域外の多様な人々との関係性を持ち、地域に巻き込むことは、地域の衰退に歯止めをかけ、持続可能な体制を作れると考えた。

③ 地域住民それぞれが主体的に地域に関わること

無茶々園で働く人々は、地域に対する自身の思いや考えを明確に持っており、今後の目標や展望なども詳しく話されている方が多かった。無茶々園が新しい技術を取り入れたり、多岐にわたる事業が生まれたりしてきたのは、このような人々の熱い思いに基づいている部分が多いと感じられた。人間関係は密であり、伝統的な地域コミュニティのような関係性を残す一方、これまでのしきたりのみを重んじるのではなく、地域を良くするために求められることを常に考え続けている点が特徴的であった。そして②で述べた地域外との繋がりももつことで、変化し続けられる環境を実現できているのではないかと考えた。

○総括―地域を豊かにするコミュニティ開発とは

無茶々園の事例を通じて、地域を豊かにする上では上記3点が重要な点であると考えたが、これらの点は全ての地域で実現できるわけではない。また、無茶々園の事例も全ての人々にとって望ましいコミュニティではなく、密な人間関係を忌避する者がいることも事実である。しかしこのような中でも、現状の地域を一度俯瞰的に見つめ直し、地域内外の繋がりや人間関係について考えることは必要なことだと考える。地域内の資源を変えることなく持続可能で豊かな地域について考えるのではなく、無茶々園の事例のように、地域の外との繋がりも持ち、多角的に考えることが重要なのではないか。今後も人口減少や少子高齢化は進行すると考えられるが、将来にわたって豊かな地域を実現するためには、地域のコミュニティ自体も常に変革していくことが必要だと考える。そのようにして、漸進的に、持続可能で豊かな地域に近づくことができるのではないかと考えた。